平成 29 年第 3 回 FD・SD 研修会
書記（豊留）記録

開会
司会：平舘　善明　准教授（教育支援室）
　今回のアセスメント・ポリシー（以下、ASP）の運用に関するテーマであることを紹介

開会挨拶：柳川　久　理事
　今回が今年度 3 回目の FD。テーマは ASP の運用。これまで 3 つのポリシーについては既に理解をいただいていると思う。新しく制定された ASP について第 1 回の濱名先生の講演に引き続いて今回の ASP の運用に関する講演になる。畜大は 2 回目の機関別認証評価によって基準を満たしているとの評価をいただいたが、次の 3 期目の機関別認証評価に向けて大学の質保証の体制整備を大学全体で取り組んでいく必要がある。
　今回の研修会で ASP の理解を深めて、積極的な意見交換の場となることを願う。

話題提供：小池　正徳　教授（教育支援室長）
・ASP に関わる本学の取り組みー各種評価と中期目標ー（資料は別添参照）
　概要のみ。
　内容はポートフォリオ（PF）の話題を中心とした。今年の 4 月入学者から導入。話は大きく分けて 3 つ（ASP の説明：各種評価システム、特に PF：中期目標との関連）。
　雑誌記事に引き続き、大学改革支援・学位授与機構が定める評価案を示した。優れた点は示したとおりだが、これに満足せず、更に 4 月からの協力をお願いしたい。
　ASP に関する基礎的事項の説明の後に、本学の ASP に関する説明。学修到達度調査、ルーブリックベースの DP 達成状況とともにスライド 7 の 3 つの審査方法の中心に PF があることを紹介。
　PF の目標は年度の初めに設定。PF の目標設定はポータルサイトを用いて学生が行う。学習到達度調査（アンケートおよびルーブリックベース評価）は 11～12 月に実施。ルーブリックベース評価は自動的に、アンケートは学生自身が行う。年度末に PF での状況確認および進級判定を行う。この PF での状況確認で担任もしくは研究室配属後は指導教員の行う仕事が増える。これら学生の自己評価・自己点検および教員による状況確認の上で大学教育センターが DP の達成状況、最終的には DP が達成されているかどうかを確認する。
　PF のイメージについてスライド 11～14 で示された。システム完成後はポータルサイトに掲載される予定。学修到達ルーブリック評価のイメージもスライドおよび別添資料 2 ページに示された。スライド 15 で学生の PF 目標設定および自己評価のイメージ、教員状況確認のイメージが示された。
　ここまで学部での PF 紹介であったが、博士課程（博士前後期含む）については現在検討

中であり、示したイメージからの変更もありうる。

スライド 20 の中心の教育推進本部については発展的解消として今後は大学教育センターが中心となる。

最後に中期目標との関連として、教員にお願いしたいことがスライド 21 で示された。PF は平成 30 年度入学者から開始。シラバスやルーブリックの整備は毎年チェックを行いながら拡充をしていく（最後の質疑にも話題に上がった）。新年度から 3 つの学際教育プログラムが開始される。これら 3 点に協力依頼があった。

話題提供：岡部　康成　特任准教授（大学情報分析室、教育支援室）

・ASP と IR 調査　本学の状況と大学間比較（資料は別添参照）

概要のみ。

内容は大きく分けて二つ。最初に 3 期目の機関別認証評価の基準、何をすべきかについて。後半は学修到達度調査/学生行動調査の結果から畜大の現状を見る。

前半は評価基準について。3 期目は評価基準のほぼ全てが教育関連。特に質保証のための大学内プロセスの評価に重点が置かれている。ASP を策定し、それに基づいて PDCA サイクルを回すシステムと回している証拠を残す。そして、そのような運営について評価がなされる。これらを説明する資料がスライド 3 から 8。教育プログラムが何であるかは大学が決定する。教育プログラムに責任を持つ組織（教育支援室）が定期的に分析・評価をして、改善・向上を目指す。その前提となるデータは IR 機能が教育プログラムに提供して PDCA を回させる。改善すべき点などを上位階層と共有等進める。その中で設けられる外部評価などについて明文化して社会への説明ができるように証拠を残す。これらが大学評価の対象となる。これらの点が特に説明された。スライド 9 で教育プログラムに PDCA を回す基盤となる組織があること、その PDCA のベースとなる ASP 等があること、それらが規程等で明文化されている必要があること、の説明が再度なされた。

後半はアンケート結果について。解析ツールを使った多角的な解析を行った。データの詳細は資料参照。

質疑応答

進行：平舘　准教授

Q（金山先生）：岡部先生資料スライド 9 の組織を作り、評価・点検を行う、そのシステムの構築が 6 年後に評価されると理解した。そのシステムの方向性や方針は？

A（柳川理事）：まだ決まっていない。ユニットが一つの教育プログラムと考えるのが妥当か。各ユニット会議の内容を評価・点検組織として議事録等を残していくのが妥当か。新たな 3 つのプログラムも教育プログラムと見てよい。それらを大学教育センターでまとめていく。いずれにしても今後決まっていく。見える形で今後示していきたい。

Q（押田先生）：シラバス、ルーブリックは今年度で完成させるのか？
A（小池先生）：添付資料が古いままで新しいものでは毎年チェックを行うと記載した。
Q（押田先生）：いつまでに？全て？
A（小池先生）：来年度に全ては難しい。今 14%程度なので、これから上げていきたい。出来るところからお願いして、100%に近づけていく。実習に関しても農畜産実習について作成したので参考にして欲しい。

Q（押田先生）：（入学時からむしろ能力・知識が低下したと回答したデータを示しながら）このデータのような少数を拾って、改善をしていくという使い方になるのか？
A（岡部先生）：N（回答者）が少なく、この回答がどれだけ意味があるのか判断が難しい。特に獣医はもともとの母数が少ないためにさらに難しい。

Q（福島先生）：N が少ないことは今後も大きく改善されないのでは？改善されない場合、対応はどうするか？
A（岡部先生）：N は徐々に増えていくと期待され、それである程度の改善が出来るのではないか。在学生を含めて、回答数を見てみると在学生の回答数はやはり多い。ポータルでの扱いにも慣れて、学生へのフィードバックを行っていけば、今後増えていくのでは。アンケートが PF にも組み込まれるのでこれも徐々に上がっていく要因の一つとなると考えられる。
A（小池先生）：PF が完成されないので、100%やってもらう。

Q（島田先生）：議事録を公開していくのか？全て公開するのか？
A（柳川理事）：以前、ユニット単位で FD として学部教育会議等に報告してもらっていた。まだ明確な形ではないが、そのようにいくつかの報告を大学教育センターでまとめて公開していくようになるのでは。

Q（木田先生）：ISO22000 と似ていると感じた。SOP（Standard operating procedure）がないので、PDCA をどう回すかが明確ではない。例えば半年に一度教育関連の会議で報告して評価・改善をするような全体構造を明確にした方がよいと思う。
A（岡部先生）：今年度からはルールがあって、それに基づいてやっているという Process の評価がされる。何が教育プログラムに該当し、どういう会議が PDCA のベースになるのか。今後これらが決まっていく。他の大学でもほとんどできていない。

Q（川島先生）：教員の仕事が増えると感じた。減る部分はないのか？
A（小池先生）：無い。PF で良いところが見えてくるはず。

A（平舘先生）: PF の活用でカリキュラムの効率化などにもつなげられるのではないか。

Q（手塚先生）: このようなシステムがうまくいった例は国内外であるか？
A（小池先生）: 欧米では古くから使われている。PF でこれまで以上に学生の顔が見える指導ができると期待される。
A（岡部先生）: 基本的には欧米追従。ただ、欧米では補助金を出してシステム整備を推進するなどの手当をしている。他にもいろいろな違い（システム以外にも文化など）があるのでなんともいえない。システムだけ導入してもうまくいくかは正直分からない。

閉会
進行：平舘　准教授

平成 29 年度第 3 回 FD・SD 研修会
「アセスメント・ポリシーの運用」実施要項

教育支援室

1. 日時：平成 30 年 1 月 29 日（月）16:30〜18:00（90 分）

2. 場所：講義棟大講義室

3. 内容と目的

　本研修では，本年度 7 月に行われた第 1 回 FD・SD 研修会における総論的議論を受け，アセスメント・ポリシーに基づく各種評価の本学における具体的取り組みに焦点を当てる。主に学習到達度試験（アセスメント・テスト）および学習行動調査，ラーニング・ポートフォリオ，ルーブリック評価とフィードバック，学生および教員による授業評価，これらを包括する IR 等について，中期目標を踏まえた本学の現状，課題や展望等の観点から具体的に議論する。

4. 対象：全教職員

5. スケジュール

司会：平舘 善明 准教授（教育支援室）
書記：豊留 孝仁 講師（教育支援室）

16:30〜16:35（5 分）
開会挨拶：柳川 久 理事

16:35〜17:25（50 分）
話題提供：小池 正徳 教授（教育支援室長）
・アセスメント・ポリシーに関わる本学の取り組み｜各種評価と中期目標
話題提供：岡部 康成 特任准教授（大学情報分析室，教育支援室）
・アセスメント・テストと IR 調査｜本学の状況と大学間比較

17:25〜18:00（35 分）
質疑・全体討論
・本学の現状と検討すべき課題等

H29年度第3回FD・SD研修会
H30/1/29

アセスメント・ポリシーに関わる本学の取り組み
―各種評価と中期目標―

教育支援室長
小池正徳

今日の話

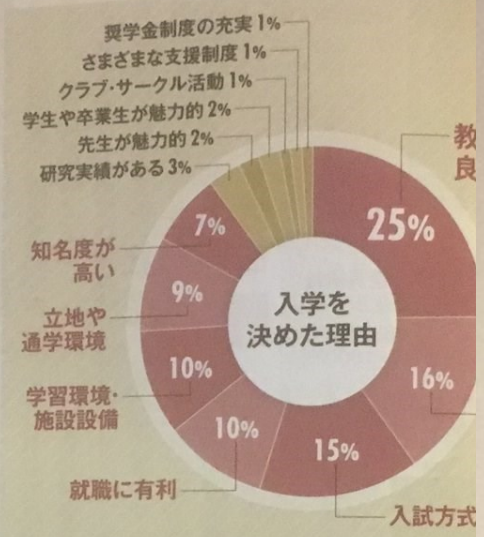
- アセスメント・ポリシーの説明
- 各種評価システム
- 中期目標との関連

「教育内容」で選ばれたトップ3はICU、国際教養、東京外大

入学者が入学を決めた理由 大学別ランキング

学習環境（施設設備等）が整っている

順位	大学名
1	神田外語大学
2	帯広畜産大学
3	岩手医科大学
4	川崎医療福祉大学
4	福岡女子大学
6	札幌医科大学
7	酪農学園大学
8	自治医科大学
9	安田女子大学
10	長岡造形大学
11	成蹊大学



教育内容が良い

順位	大学名
1	国際基督教大学
2	国際教養大学
3	東京外国語大学
4	津田塾大学
5	武蔵大学
6	神戸市外国語大学
7	フェリス女学院大学
8	静岡文化芸術大学
9	長岡造形大学
10	名寄市立大学
20	東京大学
21	福岡女子大学
22	お茶の水女子大学
23	東京医科歯科大学
24	帯広畜産大学
25	上智大学
26	東京海洋大学
27	日本獣医生命科学大学
28	札幌医科大学

順位	大学名
10	立命館大学
11	関西大学
12	関西学院大学
13	早稲田大学
14	九州大学
15	学習院大学
16	同志社女子大学
17	日本大学
18	東京藝術大学
19	立教大学
20	慶應義塾大学

順位	大学名
10	奈良県立医科大学
10	福山市立大学
12	学習院大学
13	岡山大学
14	名古屋市立大学
15	松山大学
16	三重大学
17	宇都宮大学
17	西南学院大学
19	浜松医科大学
20	熊本学園大学

学習環境（施設設備等）が整っている

順位	大学名
1	神田外語大学
2	帯広畜産大学
3	岩手医科大学
4	川崎医療福祉大学
4	福岡女子大学
6	札幌医科大学
7	酪農学園大学
8	自治医科大学
9	安田女子大学
10	長岡造形大学
11	成蹊大学
12	天理大学
13	北海道大学
14	東京工業大学
15	筑波大学
16	北海道科学大学
16	駒沢女子大学
18	東京工科大学
19	関西外国語大学
20	工学院大学

順位	大学名
1	学習院女子
2	小樽商科大
3	九州工業大
4	富山県立大
5	東京電機大
6	昭和女子大
7	大阪工業大
8	芝浦工業大
9	名古屋工業
10	金沢工業大
11	東京女子大
12	日本女子大
13	産業能率大
14	愛知工業大
15	東洋英和女
16	ノートルダム
17	電気通信大
18	福岡工業大
19	松山大学

を13項目の中から一つ選んでもらった。円グラフは回答者全体の「決めた理由」を項目ごとに集計。ランキングはそれぞれの大学ごとに入学を決めた理由を割合の多い順に、入学者数上位300校の中

帯広畜産大学は、大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学改革支援・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている。

主な優れた点として、次のことが挙げられる。

○　獣医学の実習施設である動物医療センターは、高度な専門医療を行う二次診療だけでなく、地域の獣医師会との合意に基づき犬猫等の小動物を含めて一次診療も行う施設として、学生が動物の診療に立ち会い、問診、検査、処置等の臨床診断に至るまでの基礎的な知識・技術を学ぶ実習の場となっている。

○　大学の機能強化に資する優秀な人材を確保するため、業績評価に基づく年俸制を強力に推進し、122人のうち121人の教員が既に移行している。

○　「全学農畜産実習」では、農畜産技術のある一端を実際に体験し、農畜産への幅広い興味や問題意識を育てることを目的として、栽培実習、ブタ飼育実習を軸として、農業、畜産の基本は、生き物を大切に育て、それが犠牲になり、人間の食料となっていることを学んでいる。

○　農業高等学校からの推薦入学者への配慮として、上級生チューターによる一般入試の受験科目に対応した修学上必要な学力を補う補習教育（数学、生物、化学、物理、英語の入門科目）を実施している。

○　卒業後の進路について、農畜産の加工・流通に係るような企業等に多く就職しており、卒業時に所属するユニットにおける学習内容を反映した状況である。

○　食品加工実習施設は、ハム、ソーセージ等の食品加工実習、バター、アイスクリーム等の乳製品製造実習を一貫した工程として体験することを可能とする優れた環境を提供している。

アセスメント・ポリシー

アセスメントとは、
狭義の意味では
「学生を対象にした学修成果の測定」
広義の意味では
「教育分野だけに限らない、大学における諸活動の効果測定」
を意味する（浅野　2017）

＊学生の学修成果の評価について、その目的、達成すべき質的水準および具体的実施方法などについて定めた学内の方針　（用語集・文科省）

１）「改善のためのアセスメント」

「機関の自主的・自律的なPDCAの一環として学生の学修状況」と「3つのポリシー（AP,　CP, DP)がうまく機能しているか」を把握するためのアセスメント　（単位審査、進級審査、卒業審査、ポートフォリオ等のツール）

２）「説明責任のためのアセスメント」

受験生・保護者・社会等が大学間の比較や評価

本学のアセスメント・ポリシー

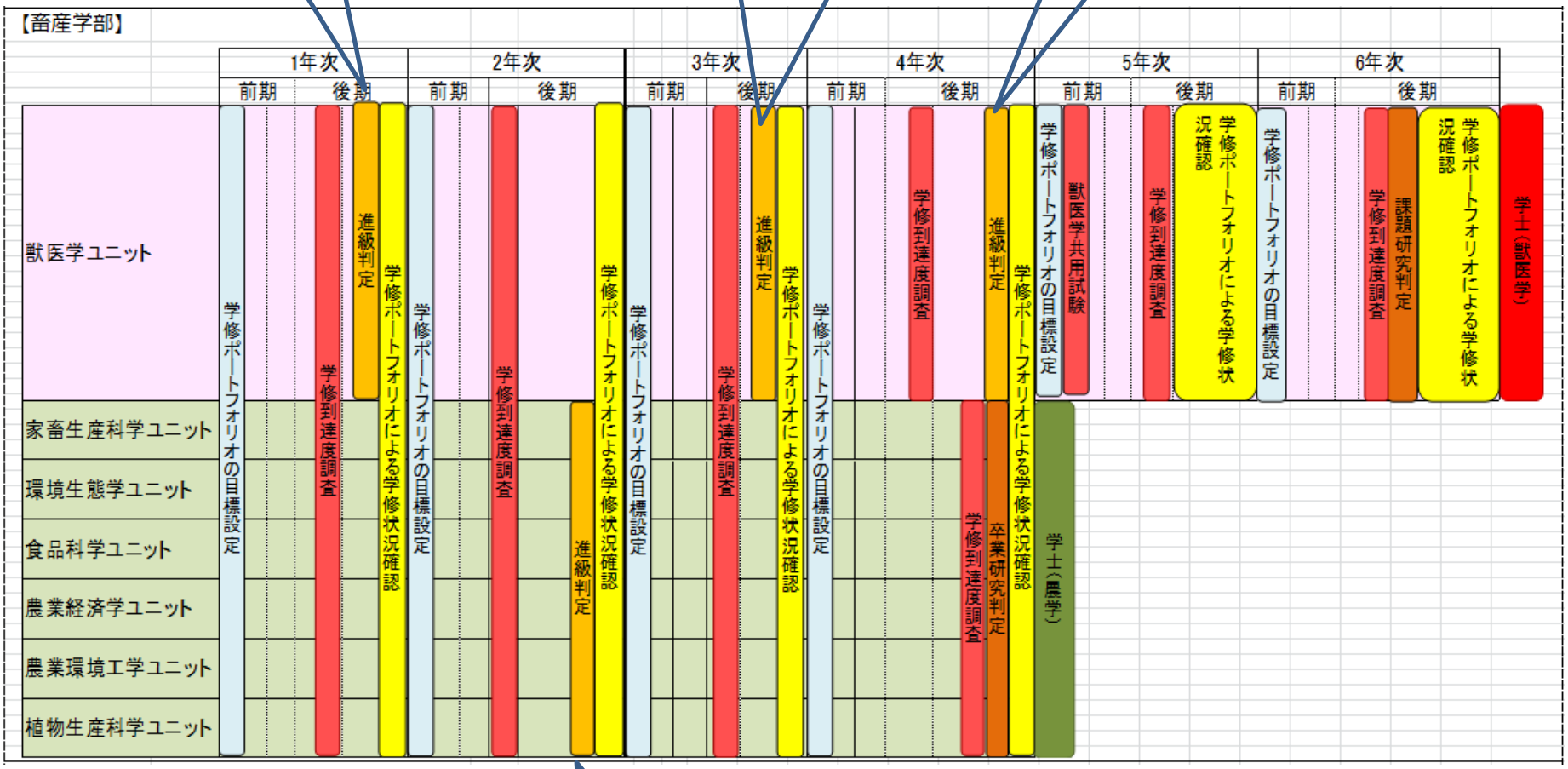
- 帯広畜産大学畜産学部では、ディプロマ・ポリシー（DP）に掲げる能力・資質の修得状況、カリキュラム・ポリシーに則した学修状況について、大学教育センターの責任において以下の3つの審査方法により評価を行います。

１．単位審査、２．進級審査、３．卒業審査

基盤・共通
32単位以上

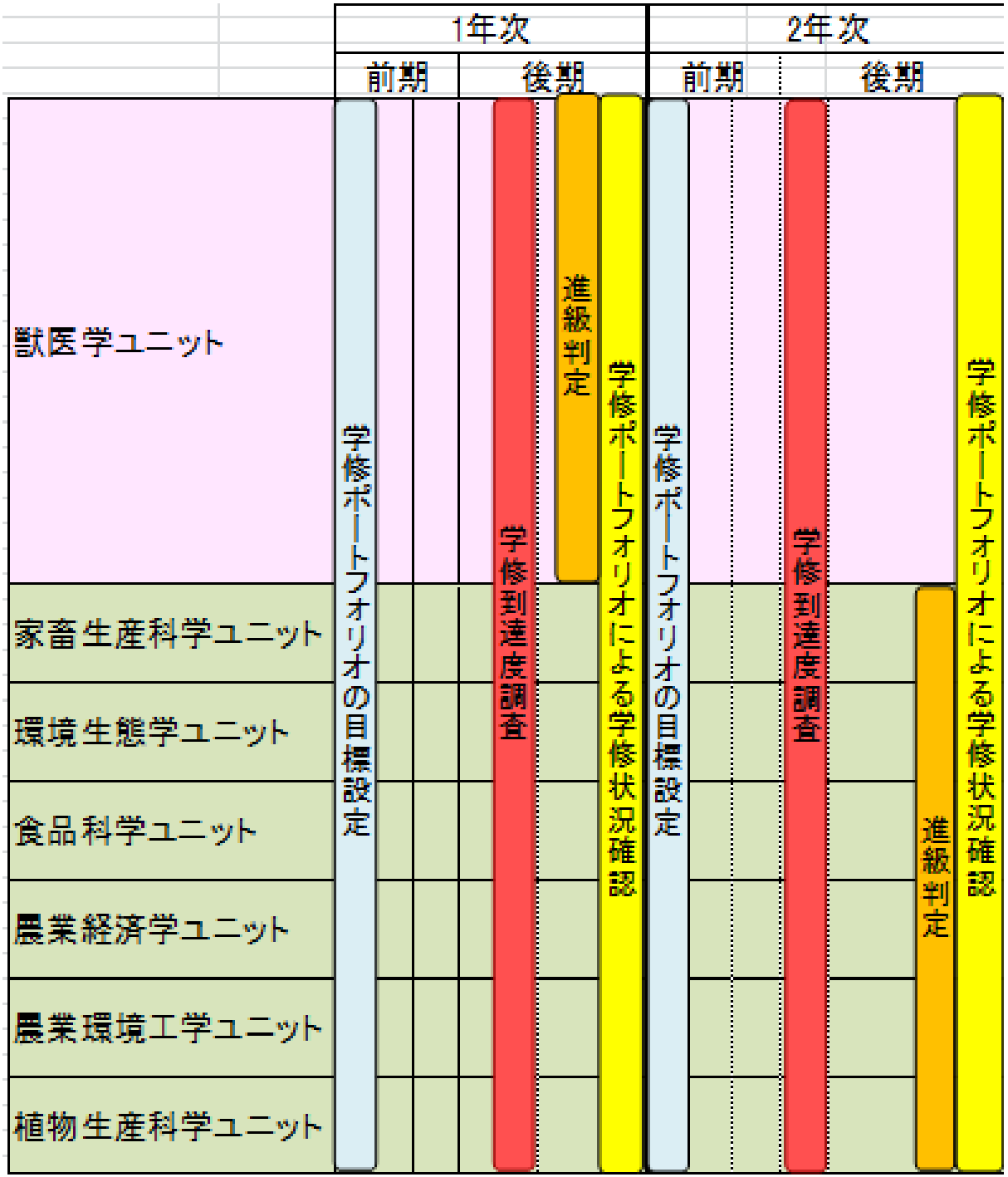
基盤・共通　46単位以上
展開教育　79単位以上

展開教育
120単位以上



51単位以上

各審査方法の実施時期（学部）



1. 学修ポートフォリオの目標設定
2. 学修到達度調査
3. 進級判定
4. 学修ポートフォリオによる学習状況確認

【学修ポートフォリオ】

- カリキュラム・ポリシーの各項目の達成状況を年度毎に記入
- 単位修得した科目名やその内容，達成度について適宜記入させる
- 年度末には指導教員等が内容を確認し，到達の程度を認定する
- 学修到達ルーブリックに基づき実施

【学修到達度調査】

- 1～3年次（獣医学ユニットにおいては1～5年次）及び卒業時に，選択式により行う
- 学修の実施状況や達成状況等を学生が自己点検・自己評価する。

【学修到達ルーブリックに基づくディプロマポリシー達成状況の確認】

- 卒業時の学修到達度調査において，学修到達ルーブリックに基づき学生がディプロマポリシーの達成状況を自己点検・自己評価する。
- 大学教育センターは，学生の自己点検・自己評価をもとにディプロマポリシーの達成状況を確認する。

ポートフォリオのイメージ

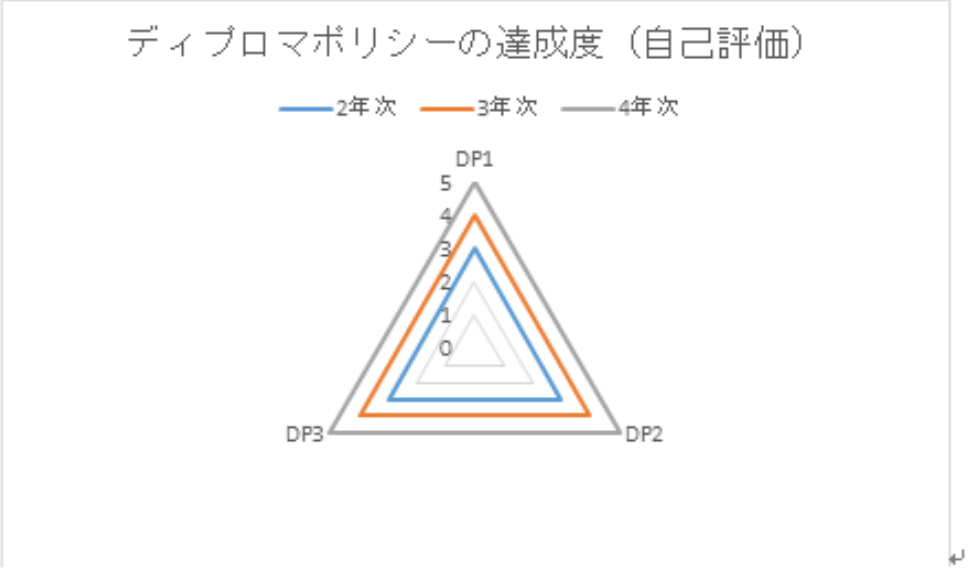
学修ポートフォリオ

基本情報

学籍番号	27900
氏名	畜大　太郎
年次	３
ユニット	環境生態学
所属サークル	馬術部
通算 GPA	3.501

ディプロマポリシーの達成度（自己評価）

学修到達度調査内のディプロマポリシーの達成度に関する設問の回答結果をレーダーチャート化したものです。



分析：経年で順調にディプロマポリシーの達成度が上昇しています。DP１～DP３までバランス良く達成できています。

（学修到達ルーブリック）

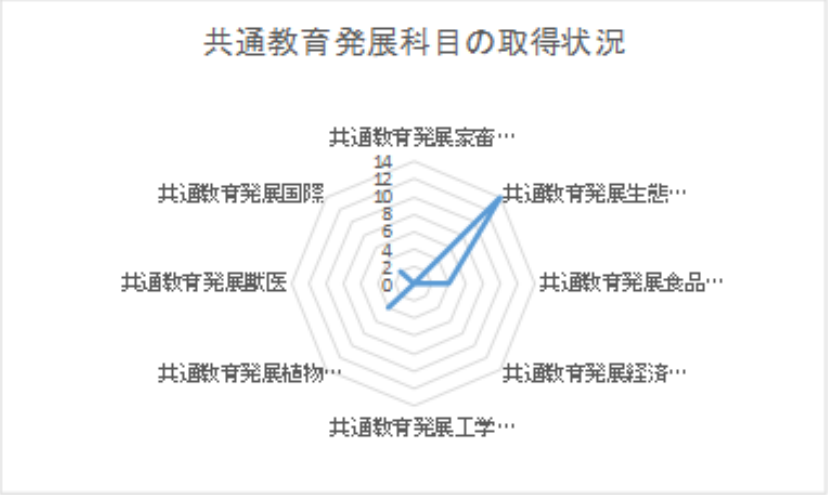
到達目標	評価基準		
	十分に到達できている	一部は到達できている	到達に相当の努力を有する
1）獣医・農畜産融合の視点から、食料の生産から消費に至る過程についての関心が高く、課題解決に向けて取り組む態度を身につけている	（1）「家畜生産と獣医学」や獣畜融合科目を積極的に履修、単位修得しこれらの知識を身につけ、自らの専門について両者の視点から課題を説明できる	「家畜生産と獣医学」や獣畜融合科目を一部履修、単位修得し断片的な知識を有している	「家畜生産と獣医学」や獣畜融合科目を履修す ることなく、獣医・農畜産融合的な知識を持ち合わせていない
	（2）「全学農畜産実習」や「農畜産科学概論」の単位を平均より上位の成績で修得し、食料の生産から消費に至る過程について、課題を含め説明できる	「全学農畜産実習」や「農畜産科学概論」の単位を平均的な成績で修得し、食料の生産から消費に至る過程について、部分的に説明できる	「全学農畜産実習」や「農畜産科学概論」の単位を平均を下回る成績で修得或いは単位を修得できず、食料の生産から消費に至る過程について説明ができない
	（3）課題を設定した上で幅広い共通教育科目を履修し、専門に偏ることなく順調に単位を修得している	課題意識をもちつつ、専門を中心とした共通教育科目を履修し単位を修得している	課題について意識することなく、必要な共通教育科目の単位を修得している、或いは修得状況が芳しくない
2）国際化社会で必要となる見識と基礎的コミュニケーション能力を身につけている	（1）国際化社会で必要となる見識についての認識を十分供えたうえで、多くの分野の基盤教育科目を履修し単位を修得している	一般教養についてある程度の関心を持ちつつ複数分野の基盤教育科目を履修し単位を修得している	漫然と基盤教育科目を履修し単位を取得している、或いは取得状況が芳しくない
	（2）国際教育アドバンストモデルをはじめ、国際関係の科目を積極的に履修するとともに、必修にとどまらない語学科目を意欲的に修得し海外へ研修に行くなどしている	語学科目を順調に履修し、論文の精読に必要な読解力と日常会話レベルの会話力を身につけている	語学科目の修得状況が芳しくなく、語学の使用に難がある
	（3）2年次TOEIC－Pテストのスコアが1年次との比較で大幅に向上しており、学修の大きな成果が見られる	2年次TOEIC－Pテストのスコアが1年次との比較で向上しており、一定の学修成果が見られる	2年次TOEIC－Pテストのスコアが1年次との比較で向上していない
3－1）獣医農畜産の専門教育コースである'ユニット'の専門知識を身につけている	（1）開講年次にしたがって共通教育発展科目、展開教育の講義を履修し平均を上回る成績で単位を取得している。	開講年次にしたがって共通教育発展科目、展開教育の講義を履修し平均的な成績で単位を取得している	共通教育発展科目、展開教育の講義を履修し平均を下回る成績で単位を取得している、或いは単位の修得状況が芳しくない
	（2）卒業論文の内容が、共通教育発展科目、	卒業論文の内容が専門知識に裏打ちされて	卒業論文の内容に専門知識の不備が見られ

分析：ディプロマポリシーは概ね順調に達成されています。自身の専門分野に偏ることなく学修を深めていくと更に良いでしょう。

学修到達ルーブリックにおける評価の根拠となる、あなたに関する数値です

			十分に到達できている	一部は到達できている	到達に相当の努力を要する
1）－（1）	修得科目	GPA	「家畜生産と獣医学」及び獣畜融合科目を1科目以上修得している、かつそれらの科目のGPAが3.3以上	「家畜生産と獣医学」または獣畜融合科目を①か科目以上修得している、かつそれらの科目のGPAが2.0以上3.3未満	左記以外
	家畜生産と獣医学	4.3			
	分子遺伝情報科学	3.7			
	基礎免疫学	3			
	上記科目のGPA				
		3.667			
1）－（2）	修得科目	GP	「全学農畜産実習」及び「農畜産科学概論」の単位を全て修得かつGPAが3.63以上	「全学農畜産実習」及び「農畜産科学概論」の単位を全て修得かつ「全学農畜産実習」及び「農畜産科学概論」のGPA3.23以上3.63未満	左記以外
	全学農畜産実習	4			
	農畜産科学概論Ⅰ	2.7			
	農畜産科学概論Ⅱ	3.7			
	農畜産科学概論Ⅲ	4			
	農畜産科学概論Ⅳ	4			
	農畜産科学概論Ⅴ	2.7			
	農畜産科学概論Ⅵ	3.7			
	上記科目のGPA				
		3.543			
1）－（3）	科目区分	修得単位数	共通教育発展科目について、各ユニット開講科目及び国際教育科目をそれぞれ2単位以上修得している、かつ必要単位をすべて充足している	左記の場合を除き共通教育発展科目について、当該年次の必修科目をすべて修得した上で選択科目も一部または全部修得している	左記以外
	共通教育発展科目（家畜）	0			
	共通教育発展科目（生態）	14			
	共通教育発展科目（食品）	4			
	共通教育発展科目（農経）	0			
	共通教育発展科目（工学）	0			
	共通教育発展科目（植物）	4			
	共通教育発展科目（獣医）	0			
	共通教育発展科目（国際）	2			

共通教育発展科目の取得状況

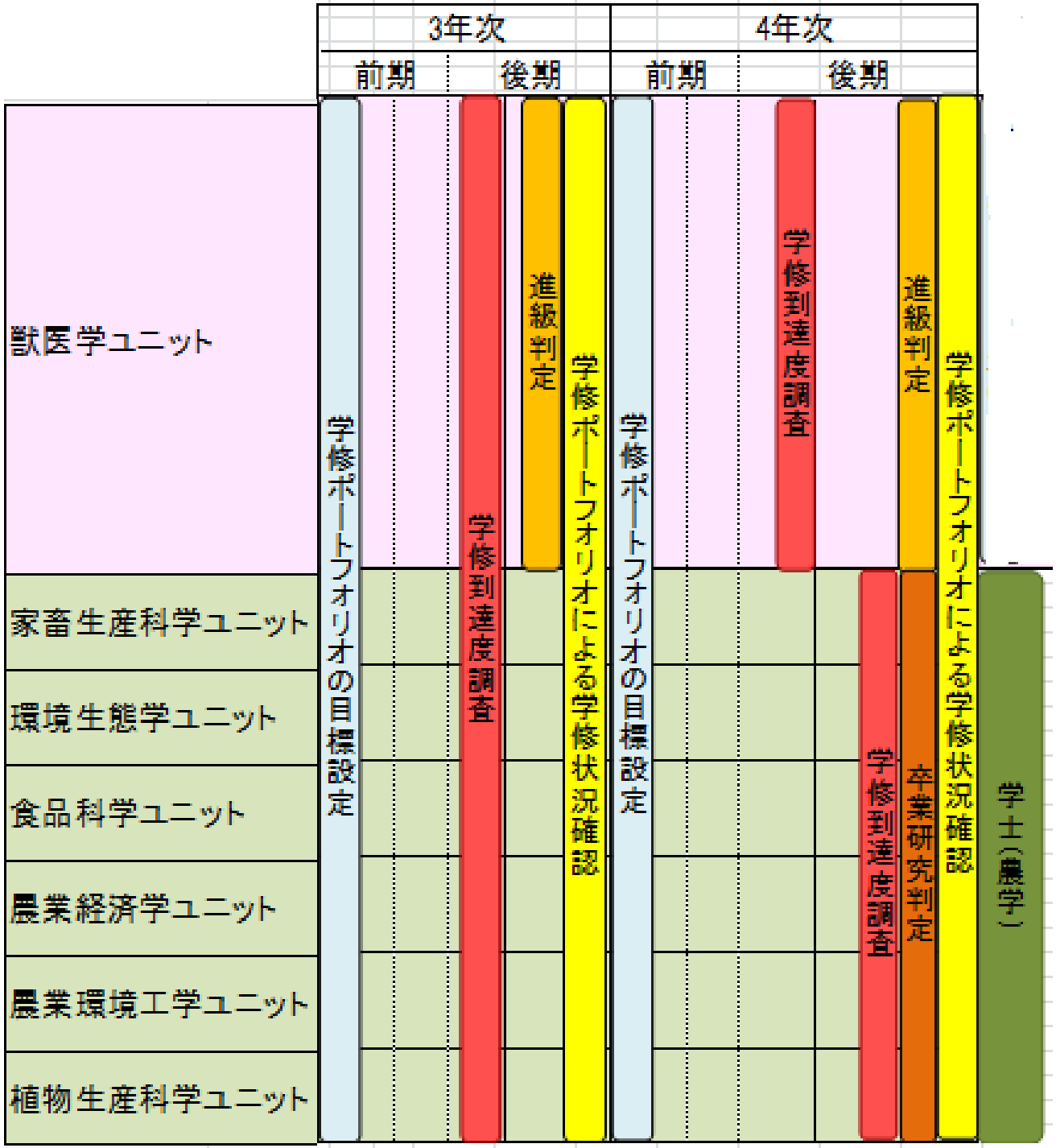
1）－（3）					
2）－（1）	科目名	修得単位数	「国際関係論」及び「日本と世界の食文化」を修得している	左記の場合を除き基盤教育発展的科目・国際科目を4単位以上修得している	左記以外
	国際関係論	2			
	日本と世界の食文化	2			
	その他基盤教育発展科目・国際科目	0			
2）－（2）	英語科目修得単位数	8	英語を8単位以上修得しているかつ国際教育アドバンストモデルを完遂	左記の場合を除き英語を6単位以上修得している	左記以外
	国際教育アドバンストモデル履修の有無				
2）－（3）	1年次TOEIC－IPテストスコア	513	2年次受検したTOEIC－IPテストの点数が、1年次受検したそれよりも6点以上上昇している	左記及び右記以外	2年次受検したTOEIC－IPテストの点数が、1年次受検したそれよりも6点以上下降している
	2年次TOEIC－IPテストスコア	700			
	2年次と1年次の差	187			
3－1）－（1）	共通教育発展科目講義及び展開教育講義GPA	3.25	共通教育発展科目及び展開教育の講義科目のGPAが2.55以上	共通教育発展科目及び展開教育の講義科目のGPAが2.15以上2.55未満	共通教育発展科目及び展開教育の講義科目のGPAが2.15未満
3－1）－（2）	卒業研究GP	-	「卒業研究」のGPが4.0以上	「卒業研究」のGPが3.3以上4.0未満	「卒業研究」のGPが3.3未満
3－2）－（1）	共通教育発展科目実験実習	3.5	共通教育発展科目及び展開教育の実験実習科目の	共通教育発展科目及び展開教育の実験実習科目の	共通教育発展科目及び展開教育の実験実習科目の

	上記の評価を踏まえ、ディプロマポリシー達成のための課題を設定してください（年度始めに行います）	年度始めに設定した目標に対する自己評価を行ってください（年度末に行います）
2年次		
3年次		
4年次		
教員記入欄		

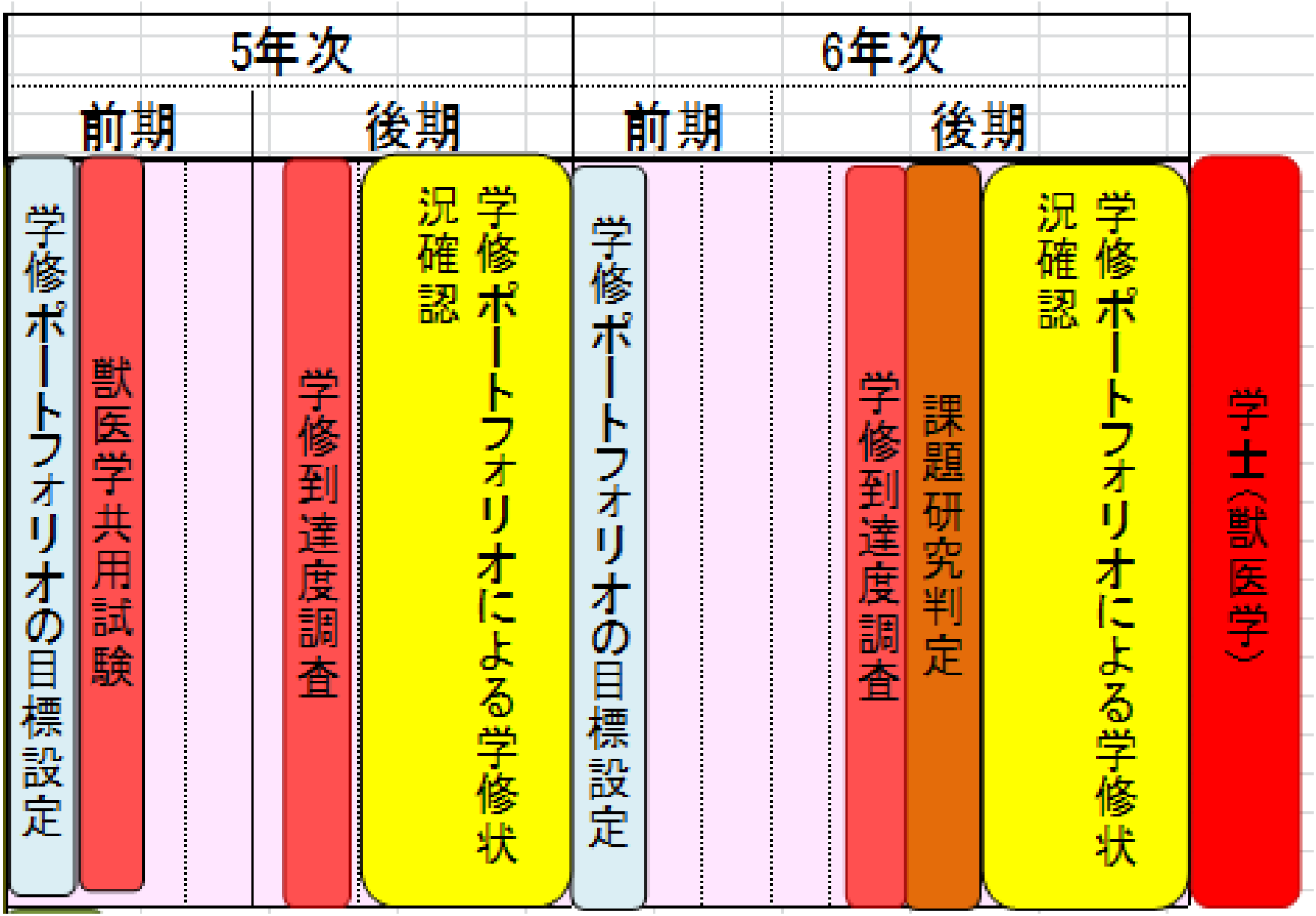
	教員からのコメント（年度末に行います）
2年次	
3年次	
4年次	

共同獣医課程
１～４年次までは
入学時の担任教員
4年次～卒業研究担当
教員

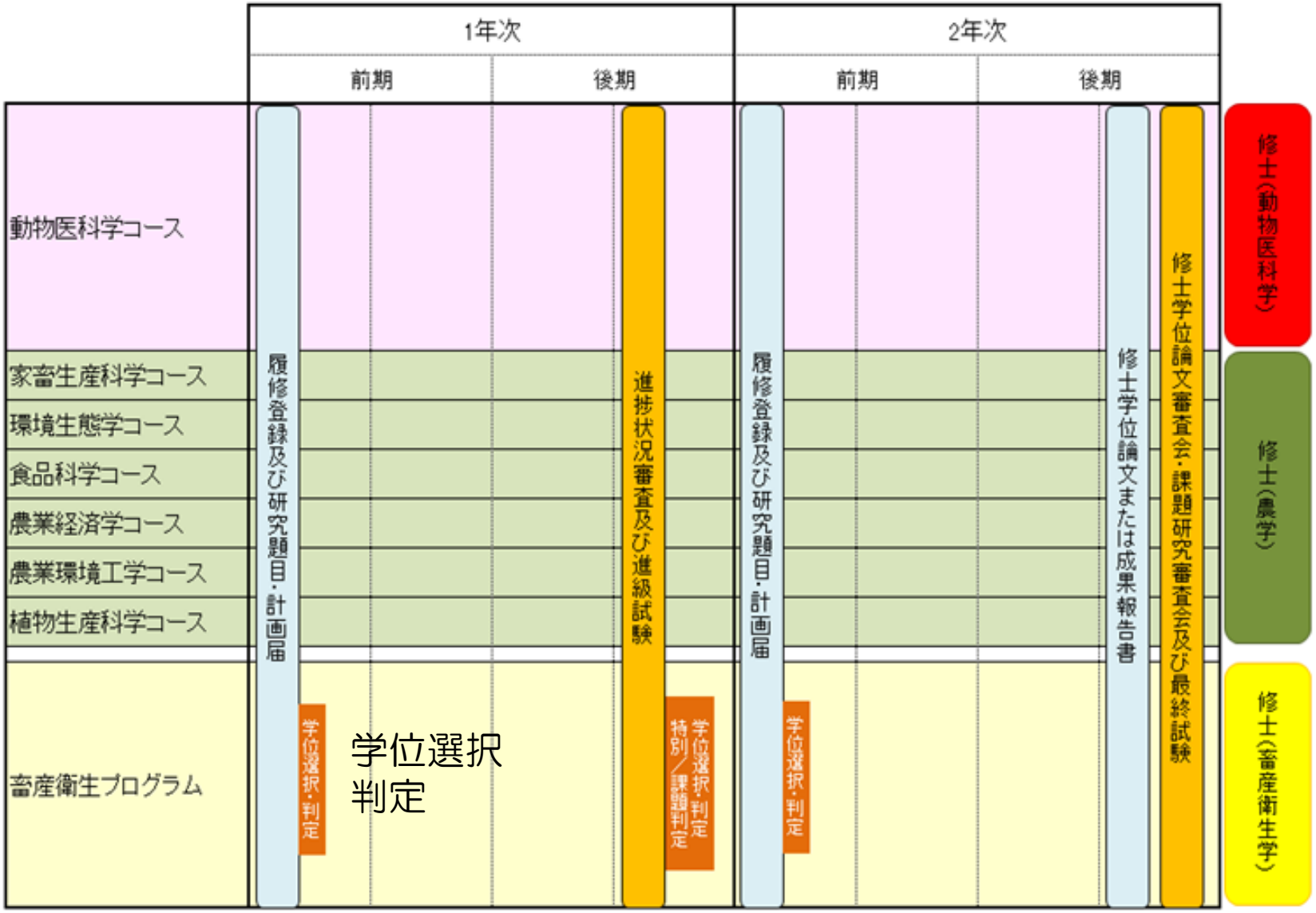
畜産科学課程
1年次は担任教員
2年次はユニット担任
3年次以降は卒業研究
担当教員がコメント
を記述する


3年次
4年次
前期
後期
前期
後期
獣医学ユニット
家畜生産科学ユニット
環境生態学ユニット
食品科学ユニット
農業経済学ユニット
農業環境工学ユニット
植物生産科学ユニット
学修ポートフォリオの目標設定
学修到達度調査
進級判定
学修ポートフォリオによる学修状況確認
学修ポートフォリオの目標設定
学修到達度調査
進級判定
学修ポートフォリオによる学修状況確認
学修到達度調査
卒業研究判定
学士（農学）

獣医学ユニット（共同獣医学課程）



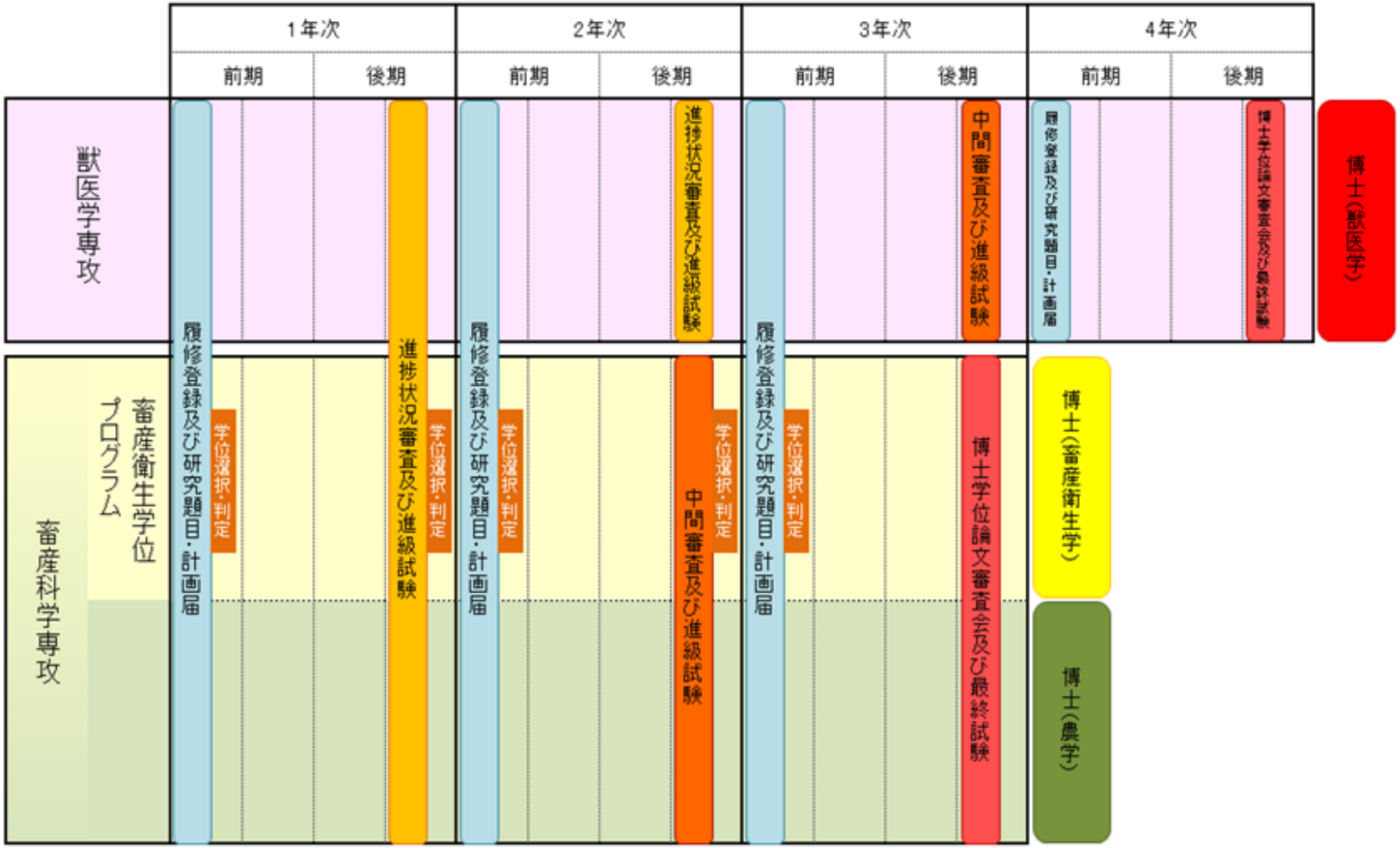
【畜産科学専攻博士前期課

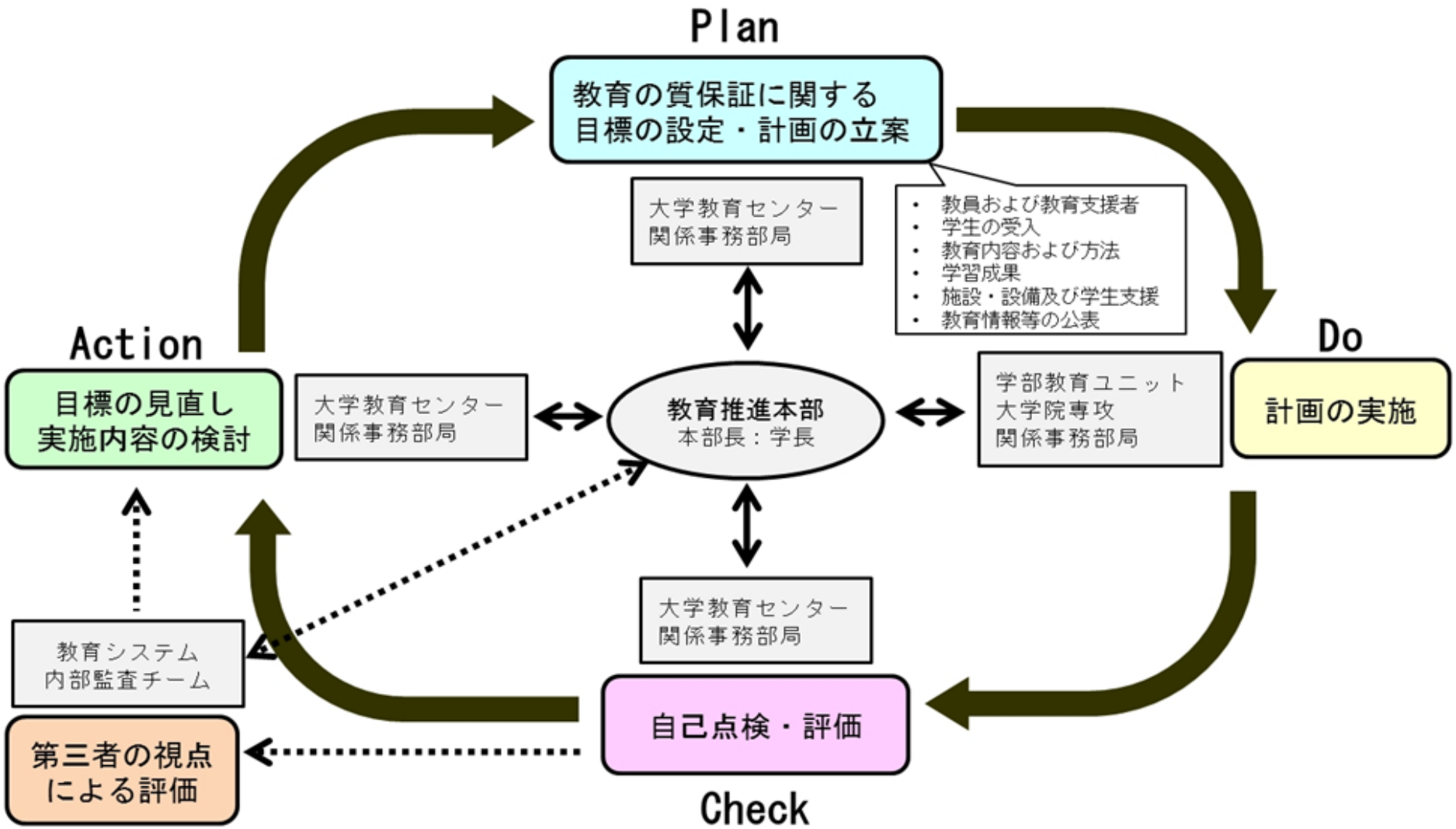


学位選択
判定

特別/課題
判定

【畜産学研究科獣医学専攻博士課程および畜産科学専攻博士後期課程】




Plan
教育の質保証に関する
目標の設定・計画の立案
・ 教員および教育支援者
・ 学生の受入
・ 教育内容および方法
・ 学習成果
・ 施設・設備及び学生支援
・ 教育情報等の公表
大学教育センター
関係事務部局
Do
計画の実施
学部教育ユニット
大学院専攻
関係事務部局
教育推進本部
本部長：学長
大学教育センター
関係事務部局
Action
目標の見直し
実施内容の検討
大学教育センター
関係事務部局
教育システム
内部監査チーム
第三者の視点
による評価
自己点検・評価
Check

皆様にお願いしたいこと（中期目標との関連）

- ポートフォリオは新年度の入学生より実施（1年生の担任になられる先生方、どうぞよろしくお願いいたします）
- シラバス、ルーブリック等（評価基準）の整備は今年度より実施（来年度完成）
- 新年度より新しい3つのプログラムが始まります、ご協力お願いいたします

平成30年度入学者より始まる３つの学際教育プログラム

１）国際教育プログラム

ウィスコンシン大学との共同プログラム
海外実習　TOEIC-IP 600、ディプロマ　700

２）大学院進学プログラム

English I~V 10単位　A⁻以上 or
TOEIC-IP 650
4年生で大学院必修科目先取り可能

３）動物医科学コース進学プログラム

大学院の動物医科学コース進学プログラム

アセスメント・テストとIR 調査
本学の状況と大学間比較

岡部康成
大学情報分析室

概要

1. 第三サイクル機関別認証評価の基準

2. 学習到達度調査/学生行動調査の結果

本ガイドラインにおける「教育の内部質保証」の定義

- 「**内部質保証**」とは、大学が自律的な組織として、その使命や目的を実現するために、自らが行う教育及び研究、組織及び運営、ならびに施設及び設備の状況について継続的に点検・評価し、質の保証を行うとともに、絶えず改善・向上に取り組むことを指す。

  これは、質保証の責任が、第一義的には大学自身にあるという考え方に基づく。大学が自律的な組織として社会からの信頼を得るためには、大学が学問の自由と誠実性（インテグリティ）を尊重し、自らの活動の質を確認、保証し、その一連の方法や結果を社会に示していくことが求められる。

- 「**教育の内部質保証**」とは、大学の教育研究活動の質や学生の学修成果の水準等を自ら継続的に保証することを指す。なお、本ガイドラインで述べる「教育研究活動」とは、教育活動を中心とし、研究活動に根ざした教育活動を含むものである。

  教育研究活動の質保証のためには、それぞれの教育プログラムの編成・実施に責任をもつ組織が、そのプログラムにおける教育研究への取組状況や、プログラムにおける学修成果を定期的に分析・評価し、その結果に基づいて、改善・向上を図ることが必要である。

  その上で、大学が各教育プログラムにおけるこうした取組を把握し、改革・改善の仕組みが機能していること、ならびにそれによって、大学が設定した教育の質が確保されていることを保証することが必要である。また、この状況を大学が社会に説明することも重要である。

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

10

林 隆之　2018　「教育の内部質保証に関するガイドライン」 平成29年度 大学改革支援・学位授与機構 人材育成セミナー「内部質保証ワークショップ」（平成29年度 大学改革支援・学位授与機構 人材育成セミナー「内部質保証ワークショップ」）資料より

本ガイドラインにおける「教育プログラム」の定義

- 「教育プログラム」とは、教育目的を達成するために体系的に編成された授業科目群（カリキュラム）、ならびに、その実施のための教育方法、学修成果の評価方法、教職員配置、教育環境など、計画的に設計された教育プロセス・環境を総合的に指し示すもの。
  - 「教育プログラム」には、学士・修士・博士・専門職学位といった学位を与える課程を指す際に用いる「学位プログラム」を含むとともに、必ずしも学位にはつながらないプログラム（たとえば修了証明書を授与する短期コース）も含む。
- 大学内で教育プログラムをどのように編成しているかは、大学により様々。
  - 例：教育プログラムという考え方はせず、学部・研究科や学科・専攻といった組織中心の考え方をしている場合には、教育目的を達成するために授業科目群（カリキュラム）が体系的に編成されている組織単位（たとえば学科・専攻）で提供している教育が、教育プログラム。
  - 例：教育組織と教員組織の構造を分離し、一つのプログラムを異なる教員組織に所属する教員が実施する体制をとっている。

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

11

林 隆之　2018　｜教育の内部質保証に関するガイドライン」　平成29年度 大学改革支援・学位授与機構 人材育成セミナー ｜内部質保証ワークショップ」（平成29年度 大学改革支援・学位授与機構 人材育成セミナー「内部質保証ワークショップ」）資料より

内部質保証システムの要素

1　教育の内部質保証に関する方針と体制

大学が教育研究活動の質と学生の学修成果の水準等を保証し、継続的に改善・向上を行うための枠組みとして、質保証の方針や体制を定めている。

2　教育プログラムの点検・評価（モニタリングとレビュー）

教育研究活動の質や学生の学修成果の水準等を保証し、継続的に改善・向上を行うために、教育プログラム等の毎年の点検（モニタリング）や定期的な点検・評価（プログラム・レビュー）を行っている。

3　教育プログラムの新設等の学内承認

新たな教育プログラムの設置において、その質を保証するための学内承認の仕組みを定め、行っている。

4　教職員の能力の保証と開発

教育研究活動を担う教員と教育支援及び学生の学修支援業務にあたる教職員の能力を保証し、育成・能力向上をするための方策を継続的に行っている。

5　学修環境・学生支援の点検・評価

学生が学修を行う施設・設備や資源等の学修環境、ならびに学生の学修等の相談・助言等の学生支援の施策の状況について、継続的な改善・向上を行うために、点検・評価を行っている。

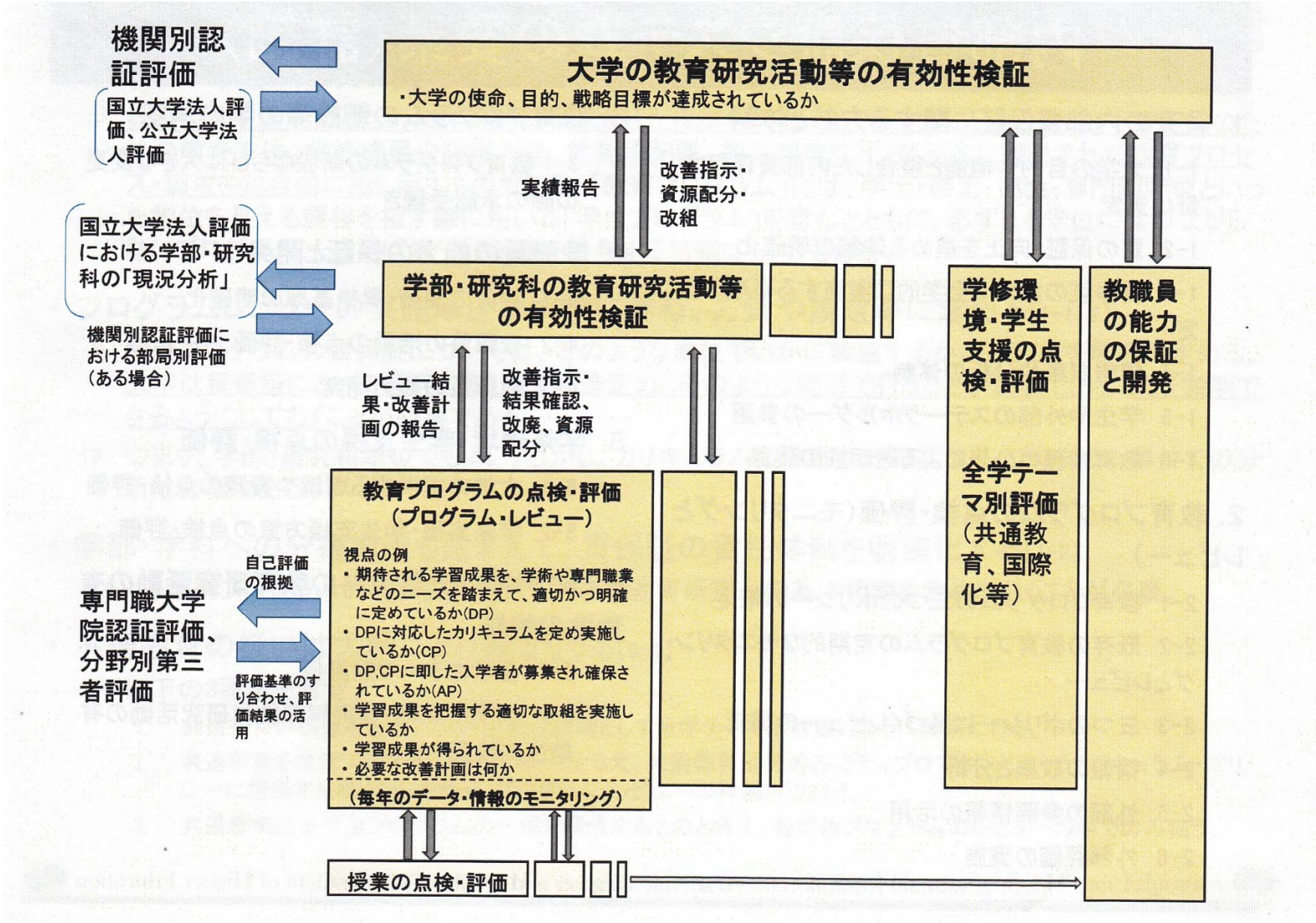
6　大学や学部・研究科の教育研究活動の有効性の検証

大学や学部・研究科の使命や目的を実現するため、上記の点検・評価の結果を総合し、また、必要に応じて全学のテーマ別の点検・評価を行うこと等により、大学や学部・研究科の教育研究活動がその使命や目的に照らして適切に行われ、成果を上げていることを検証している。

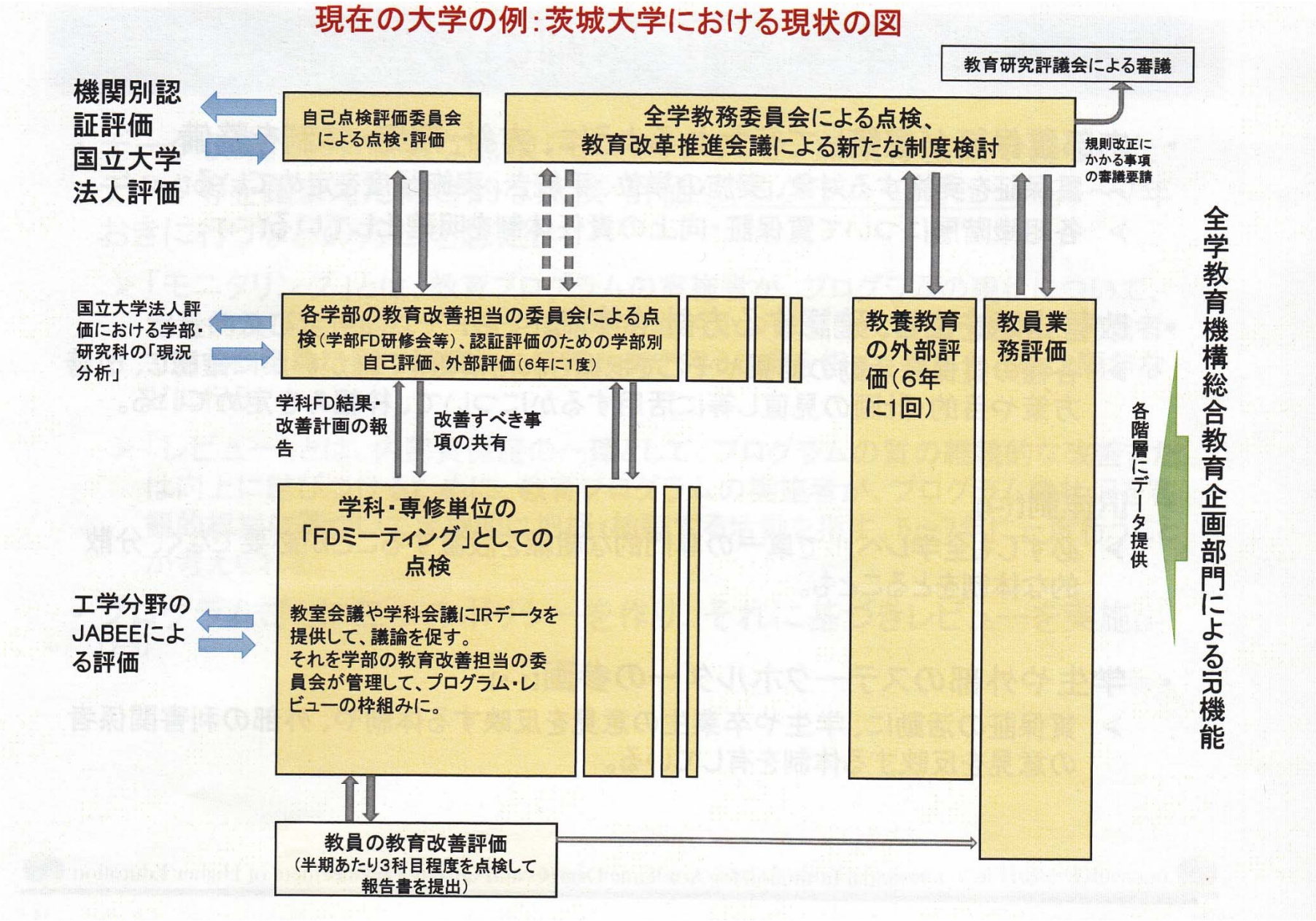
National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

12

林 隆之　2018　「教育の内部質保証に関するガイドライン」　平成29年度 大学改革支援・学位授与機構 人材育成セミナー「内部質保証ワークショップ」（平成29年度 大学改革支援・学位授与機構 人材育成セミナー「内部質保証ワークショップ」）資料より



林 隆之　2018　「教育の内部質保証に関するガイドライン」　平成29年度 大学改革支援・学位授与機構 人材育成セミナー「内部質保証ワークショップ」（平成29年度 大学改革支援・学位授与機構 人材育成セミナー「内部質保証ワークショップ」）資料より



林 隆之　2018　「教育の内部質保証に関するガイドライン」　平成29年度 大学改革支援・学位授与機構 人材育成セミナー「内部質保証ワークショップ」（平成29年度 大学改革支援・学位授与機構 人材育成セミナー「内部質保証ワークショップ」）資料より

内部質保証システムの要素（詳細）

1. 教育の内部質保証に関する方針と体制

1-1 大学の目的や機能と整合した内部質保証方針の策定

1-2 質の保証・向上を進める体制の明確化

1-3 質保証のために全学的に実施する事項の設定

1-4 情報収集や分析の体制

1-5 学生や外部のステークホルダーの参画

1-6 教育情報の公表による透明性の確保

2. 教育プログラムの点検・評価（モニタリングとレビュー）

2-1 教育プログラムの三つのポリシーの策定

2-2 既存の教育プログラムの定期的なモニタリングとレビュー

2-3 三つのポリシーに基づくレビューの実施

2-4 情報の収集と分析

2-5 外部の参照情報の活用

2-6 外部評価の実施

3. 教育プログラムの新設等の学内承認

3-1 教育プログラムの新設ならびに大きな変更の際の承認手続き

4. 教職員の能力の保証と開発

4-1 教員の採用・昇格基準の明確化

4-2 教職員の活動の点検・評価

4-3 教職員の能力開発

5. 学修環境・学生支援の点検・評価

5-1 大学の提供する環境や資源の点検・評価

5-2 学修支援・学生支援方策の点検・評価

6. 大学や学部・研究科の教育研究活動の有効性の検証

6-1 全学のテーマ別評価

6-2 大学や学部・研究科の教育研究活動の有効性の検証

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

15

林 隆之　2018　「教育の内部質保証に関するガイドライン」　平成29年度 大学改革支援・学位授与機構 人材育成セミナー「内部質保証ワークショップ」（平成29年度 大学改革支援・学位授与機構 人材育成セミナー「内部質保証ワークショップ」）資料より

要　件

1. 教育研究活動等の質及び学生の学習成果の水準を継続的に維持，向上を図る（内部質保証）のための機関としての組織（機関別内部質保証組織）がある
2. それぞれの教育課程の編成，実施および学習成果について責任をもつ基本的な教育研究組織（学部・研究科等）が定められている
3. それぞれの教育課程の編成，実施および学習成果について点検・評価の実施方法及び点検すべき項目が定められている
4. それぞれの教育課程の教育課程と学習成果について点検・評価が実施されている
5. それぞれの教育課程に関する点検・評価の結果を機関別内部質保証組織に集約する方法が定められている
6. 財務，管理運営，施設設備及び学生支援に関する点検・評価体制が整備されている
7. 教育課程の編成・実施，管理運営，施設設備，学生支援，学生受入について関係者意見の聴取，集約の手順が明確である
8. 集約された自己点検・評価の結果の検討に対して，対応する取組を企画，実施する組織がある
9. 点検評価によって確認された問題点のそれぞれについて，それが改善，改善の取り組みの進捗，計画が確認されている
10. （IR）自己点検・評価を改善，向上につなげる取組のなかで，必要な情報を体系的，継続的に収集，分析する組織的取組が効果的である

10. （意見聴取）学生を含む関係者からの意見を体系的，継続的に収集，分析する組織的取組が効果的である

10. （外部評価）権威ある第三者による検証，助言を受け，内部質保証に対する社会的信頼が一層向上していること

H29年度学修到達度/学生生活実態調査（卒業時アンケート）結果

項目　大学IRコンソーシアムの項目を援用（H29/8加入）

※大学IRコンソーシアム

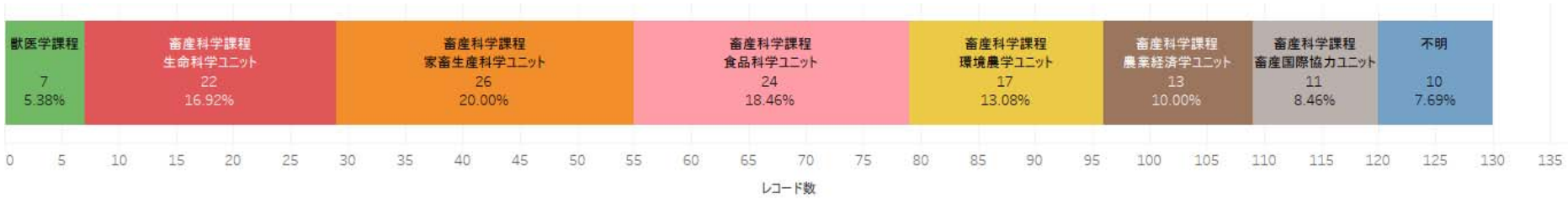
設立：H24

目的：共通学生調査による大学間比較

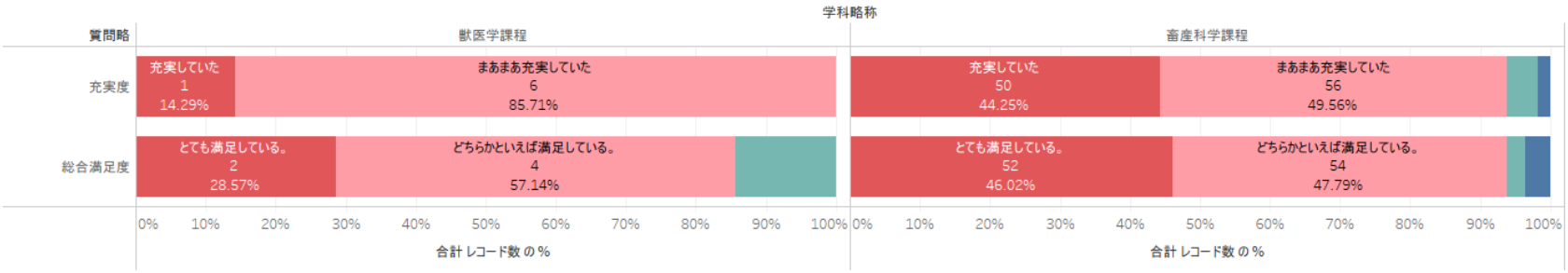
会員校：53大学(国立10大学、公立4大学、私立39大学)

回収方法　学内ポータルサイトによるweb調査および質問紙配布

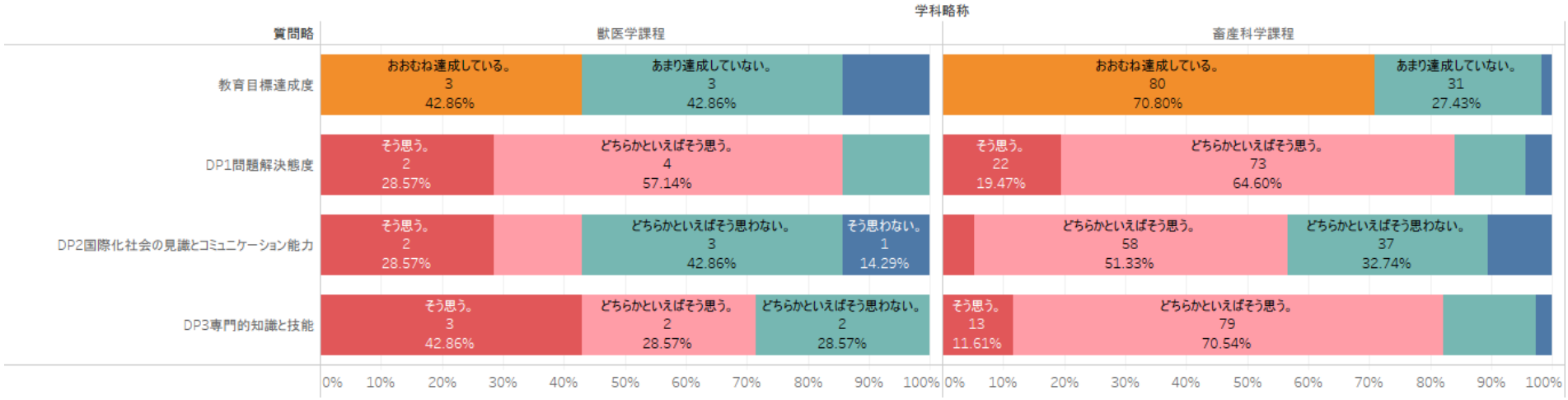
回答数　130/246（回収率　52.8％）



充実度・満足度



教育目標達成度，DP獲得度

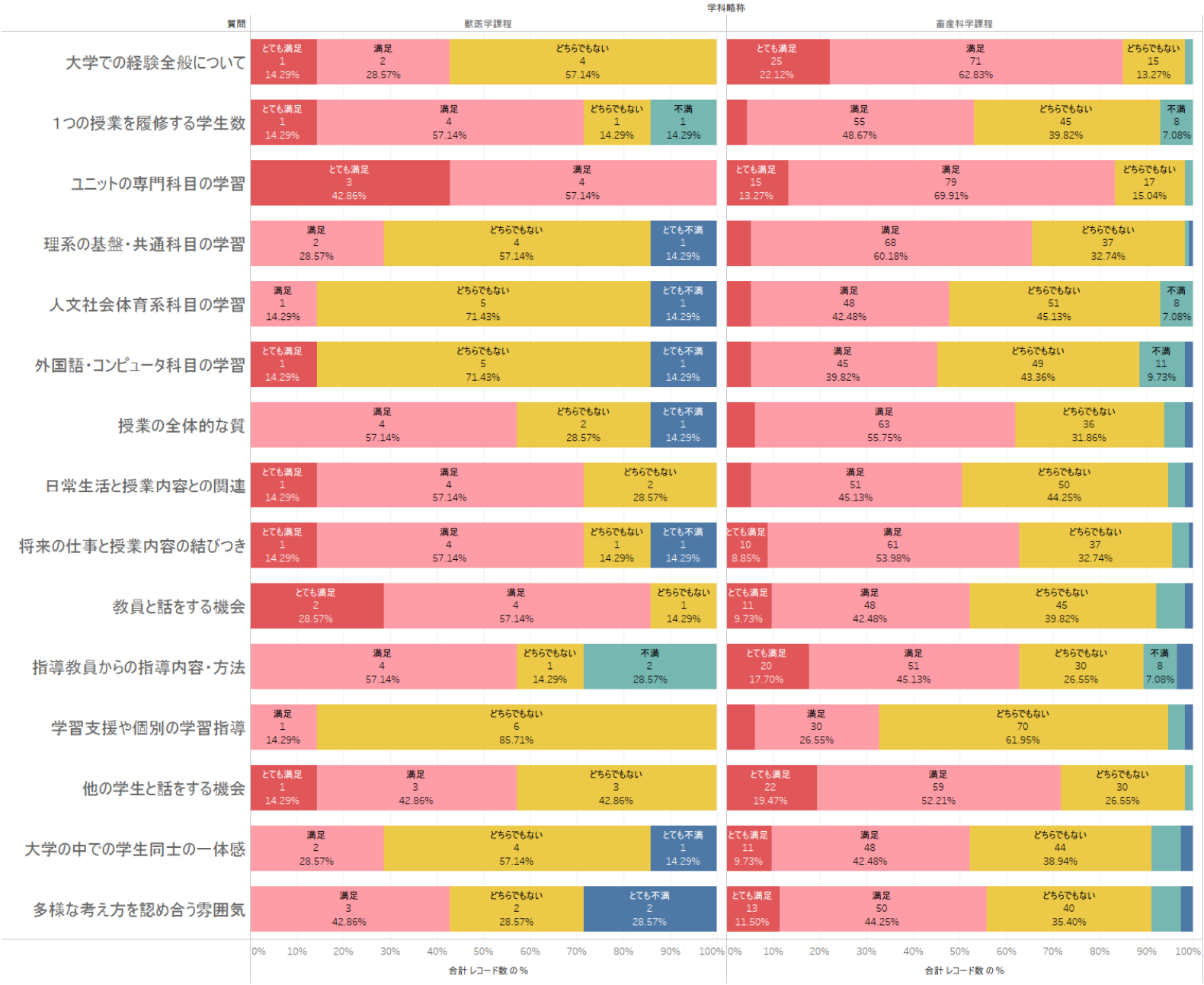


DP1　獣医・農畜産融合の視点から、食料の生産から消費に至る過程についての関心が高く、課題解決に向けて取り組む態度を身につけている

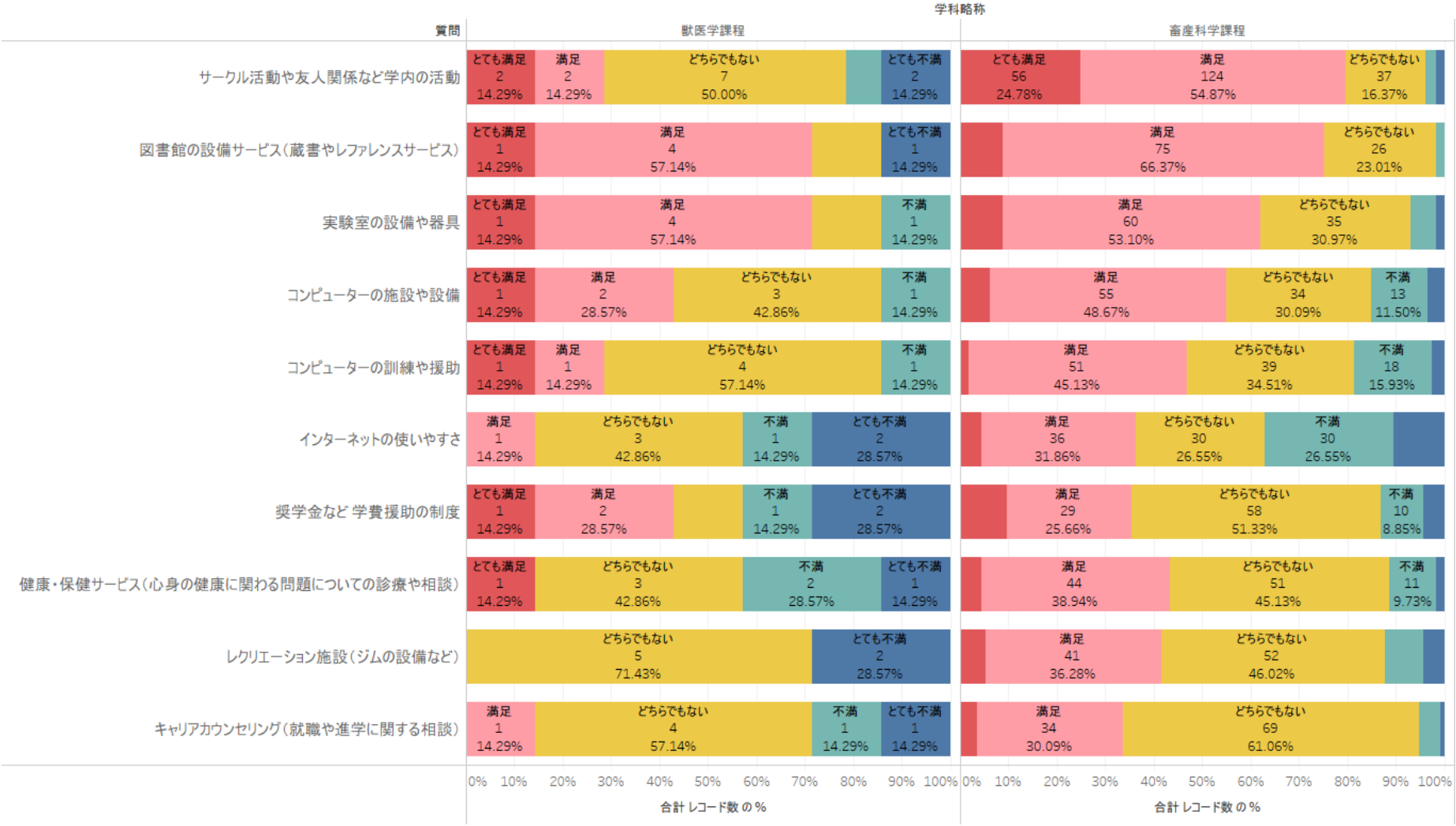
DP2　国際化社会で必要となる見識と基礎的コミュニケーション能力を身につけている

DP3　獣医農畜産の専門教育コースである下記'ユニット'の専門知識、技術及び課題解決に向けた基本的能力を身につけている

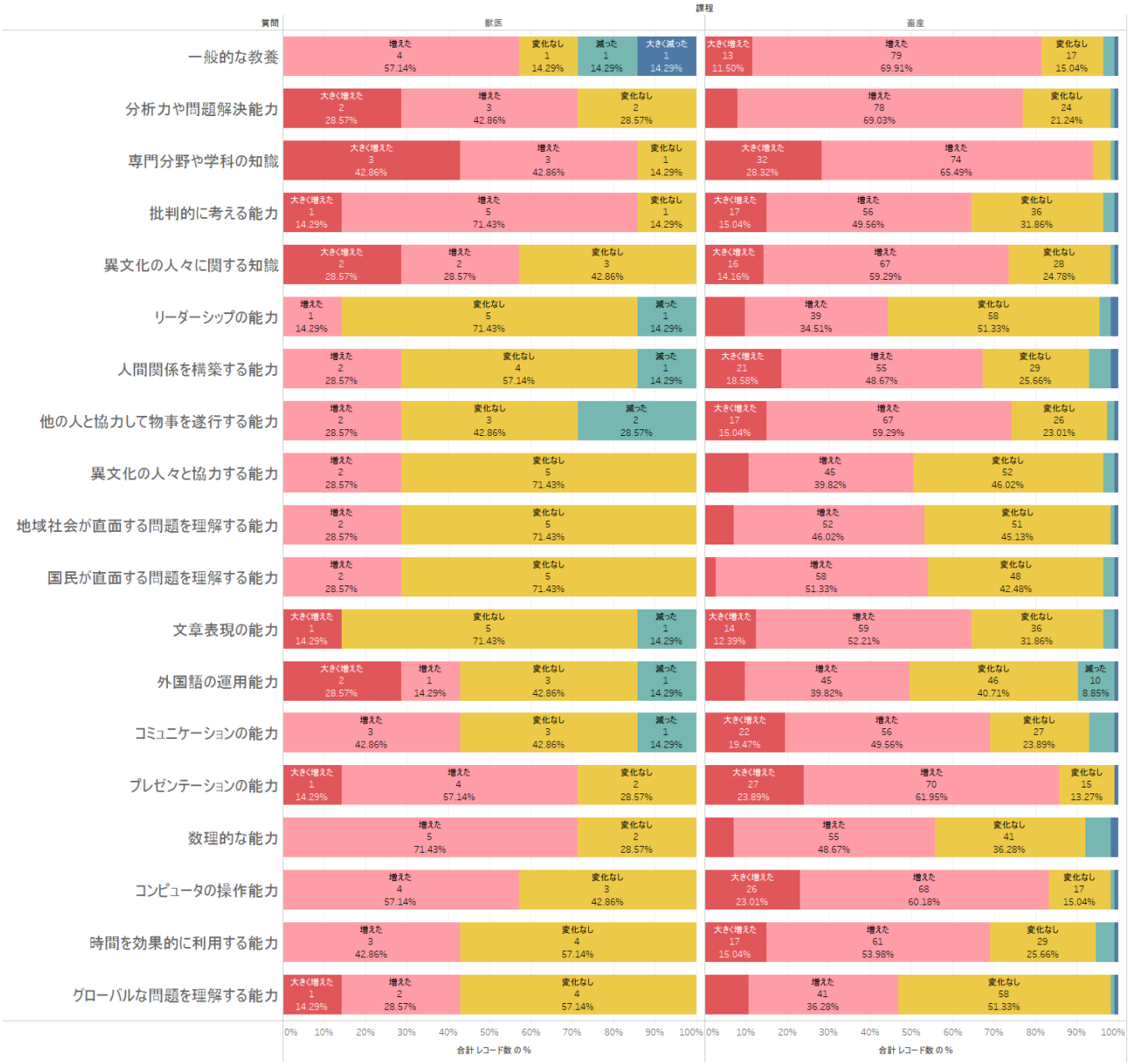
本学の教育内容・環境にどれぐらい満足していますか.



本学の設備や学生支援制度について どの程度満足していますか

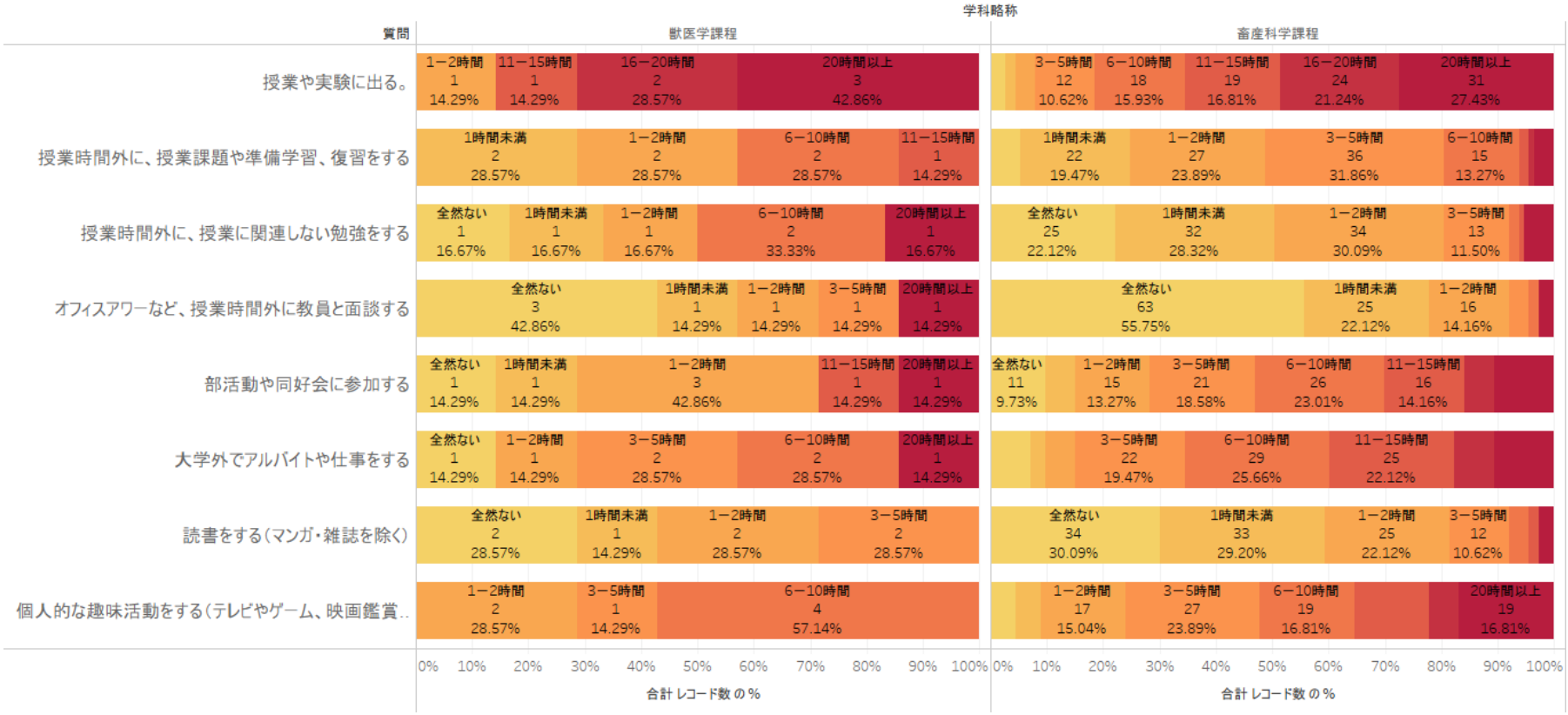


入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。



大学在学中のあなたは、以下の学習や活動に対してどの程度積極的に取り組みましたか。

入学以来、あなたは次の活動に１週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。



平成29年度第3回FD・SD研修会に関するアンケート

設問1　今日のFD・SD研修会に参加したことは、ご自身の教育能力の改善のために有意義でしたか？

1　非常に有意義だった	17
2　やや有意義だった	17
3　どちらともいえない	9
4　あまり有意義でなかった	2
5　まったく有意義でなかった	0
計	45

設問2　今回のFD・SD研修会のテーマに関連した追加の質問や意見などがありましたらお書きください。

・正にプロセスを明確にして6年後の評価に対応するのであれば早急に何をいかに簡略かして行うか明確にすべきであると思う。事務局が使用しているICレコーダーなど、関連する会議についてはとりあえず記録しておく等早めに対応すべきでは？
・評価が必要なことは理解できるが、授業評価だけでも学生からの評価が悪く、アンケート自体が形骸化してしまうのではないか。※授業評価をポータルサイトで行うようになってから一度にアンケート回答するので、かなり適当に答えているという声も（学生から）聞くようになった。

・来年度以降ますます大変になる。（個々の労力が増大する）しかし``教育の内部質保証``のためには我々も協力を惜しんではいられないと思う。

・内容は理解できたが、では具体的にはというとイメージがわかない。具体的な話はこれからするのでしょうか。話の関連がうまくないような感じがします。特に後段の話はまとまりがない感じでどうしたらよいのかよくわかりませんでした。
・アンケートの回答率が50%だとバイアスがかかっているかもしれませんね。

・具体的に決まっていないためか、何をすべきかイメージを持てない。仕事が増えますね…。時間を守って終わってほしい。間伸びしている印象がある。

・個々の先生が対応すべき内容が整理されていくんでしょうね。
・大学としての質保証の評価システムを作ってから、このようなFDをやるべきです。大切なものが何も決まっていない段階で、末端に仕事を振り分ける話をするのは効果的ではないと思います。
・Tableandateも公開されるのでしょうか？

・クラス担当の仕事もその先生によって負担が変わると考じた。評価のやり方についても偏りがないようにある程度実施方法を決めてほしい。

・内部質保証監査チームが有効に機能していないのでは？（PDCAのC→Aの手段が不明確）　第3巡目の認証評価においては、内部保証重視の評価方針が示されております。また、教育の質保証に関するガイドライン対応も必須になりますので本日の内容がガイドラインに沿うものであるよう点検をお願いいたします。また教育内容については自己点検のみならず法人評価以外の外部評価の実施もガイドラインで求められておりますので、ご検討頂くとともに自己点理結果は定期的に実施するとともに、外部にも伝わるようホームページに公開するなど、広く公表されることが望ましい。レビューは日常的に行うもの、IRデータをネタに教員間の活発な議論が教育改善に活かされるよう、IR室との連携を深めて頂きたい。

・ISO22000の構策と同じですね…方針、目標、SOP、チェックシートとして、定例評価会議とトップマネジメント。これを回していく。そうなるとSOPとチェックシートがまだできていない感じですね。

設問3　その他、FD・SD研修会全般に関するご意見、ご提案などがあれば自由にお書き下さい。

・卒論時期などは日程を検討頂ければ幸いです。

・パワーポイントの字が小さすぎるものがあったのでご検討ください。（お忙しいことは十分わかりますが。）

・入学試験別→卒業・就職（進路）・状況結果　とくにユニット別評価→これらに基づく全学としての今後の方向性議論

・資料の文字が小さすぎます。せっかくの情報なのに読む気がしなくなっちゃいます。文字の小さな資料は1ページ1スライドで印刷するなどして下さい。スライドも文字小さくて読めない→まずここから改善しないと！

・本アンケート結果は何等かの形で研修会が有意義なものになるよう改善につなげてほしい。

・本日の統計関係のハンドアウトは小さすぎて全く意味を成さない。